

保育者アンケートに基づく保育所環境評価ツールの開発に関する研究

A study of evaluation tool development for nursery school environment

based on nursery teacher questionnaire

学籍番号 47-166735

氏 名 駒井 彩乃 (Komai, Ayano)

指導教員 佐久間 哲哉 准教授

1. はじめに

1. 1 研究背景

近年、待機児童問題に伴い保育所の増設が進んでいる¹⁾。国の基準を満たす認可園以外に地方自治体独自の規制緩和された保育所も存在し多様化している。量的拡大が図られる一方で施設環境の質低下が懸念され、鉄道近接園の電車音や振動による子どもや保育者への影響²⁾、室内の吸音不足による喧騒性の体調影響³⁾の指摘がある。

保育所施設の環境は①施設計画・設計と②施設運営の2段階で形成される。前者は認可保育所で「児童福祉施設最低基準」、認可外では「認可外保育施設指導監督基準」を厚労省が定めている。しかし必要諸室と子ども一人当たりの面積規定のみであり、文科省の「学校施設整備指針」にあたる保育施設の設計・整備指針等は存在しない。また後者では厚労省の「保育所保育指針」で位置づけられた保育所自己評価や福祉サービス第三者評価が存在するが努力義務であり、内容は保育指針や理念、保育内容が主な評価になっている。以上より保育所施設の環境について具体的に考慮されているとは言い難い。

1. 2 研究目的

建築分野では POE (Post Occupancy

Evaluation) 「居住後評価」等に訳される施設評価がある。空間の使い勝手等を利用者が評価し、オフィスや住宅用といった建物用途によって様々な評価ツールが開発されている。本研究では保育に携わる人たちが自身の園の問題を把握できる保育所施設の環境評価ツール開発を目的とし、保育所の施設環境向上の一助を目指す。

2. 保育所環境評価ツール概要

2. 1 評価ツール実施・活用モデル

POE では物理測定と心理測定の2つがある。本ツールでは測定機器を使用せず、保育者へのアンケートを用いて多くの保育所で手軽に行えるものとした。

具体的な評価ツールの実施・活用モデルを示す。実施主体者は保育事業者や運営者であり、回答者は保育者である。運営者は保育者の不満や現場の問題を把握し、今後の運営方法を考える手立てとする。保育者は回答することで保育に必要な環境とは何かを考える契機となる。また事業者が複数の保育所を持つ場合、各施設間の比較を行ったり、継続的に行うことで設備の劣化や運用変化による不具合の把握が想定される。

2. 2 評価内容の選定

保育所に求められる性能

評価内容を考えるにあたり、まず保育所

に要求される性能についてブレストを行い、KJ 法的分類により整理を行った結果、健康性・安全性・衛生性・快適性・機能性の5つに分類された。またそれぞれに施設利用者である子どもと保育者の視点が認められた（図1）。各性能に関わる物理的な環境に光・音・熱・空気・空間の要素が含まれる。以上の性能をふまえた上で具体的な評価項目の選定とアンケート構成を行った。

アンケート構成と評価方法

保育所全体は保育活動に直接関わる空間か否かに分けることができ（図2、表1）アンケートの構成もこの2軸で行った。既往研究や既存のツール^{4)~6)}を参考に部屋・場所ごとに項目を設けた。アンケート項目の構成と設問概要を表2に示す。多忙な保育者の負担にならない分量に留意し、基本的に各項目の満足度（一部、しやすさ）を5段階で聞く形式とした。さらに不満点について選択肢の中から複数回答してもらう。最後には自由記述欄も設け、選択肢でカバーしきれない不満点も拾い上げる。

アンケート前半は保育活動に直接関わる諸室の保育室や園庭等の評価である。保育室は保育活動の多くが行われ、午睡・食事・自由遊び・歌やお遊戯・読み聞かせと多様な機能を持つことから、各保育活動のしやすさと不満理由を環境要素の観点から評価し（表3）、複数選択肢から答える形にした。加えて保育室の使い勝手、園庭使い勝手と散歩を想定した施設周辺環境、保育所全体の安全性と衛生性を聞いた。その他の空間は不満場所を選択した上で理由を自由記述式にし、最後に総合評価の子どもにとって適切な環境、保育者にとって保育しやすい環境について満足度を聞いた。



図1 保育所要求性能

	活動	必要環境	空間・場	具体的なアクティビティ
子ども	保育される	保育される子どものための環境	保育空間（保育室・園庭etc.）	遊び・歌 午睡 食事 排泄etc.
	保育する	保育者にとって保育しやすい環境		
保育者	準備 片付け 事務作業	保育者が働きやすい環境	サポート空間（事務室・更衣室etc.）	洗濯 更衣 事務etc.

図2 保育所空間分類

表1 諸室分類

保育所空間	保育活動に直接関わる空間	保育室、ほふく室、乳児室、園庭、ホール・遊戯室、医務室、子どもトイレ、沐浴室、階段、廊下、玄関
	保育活動に直接関わらない空間	事務室、更衣室、職員トイレ、調理室、調乳室・給湯室、洗濯室、倉庫・物置、駐車・駐輪場

アンケート後半は保育活動に直接関わらない事務室や調乳室等の項目である。保育者の拠点となる事務室、更衣室の使い勝手と不満理由を評価してもらい、その他の場所は不満場所を選択した上で理由を自由記述式とした。また勤務中にリラックスできる場・気分転換できる場・職員間のコミュニケーションができる場の有無と、ある場合はその場所の自由記述欄を設けた。最後に総合的な職場環境の満足度を設定した。

2. 3 結果の分析と提示例

アンケート結果はどの点に問題があるか把握でき、実施者に分かりやすい形で提示されなければならない。①対象園の主観的な傾向が分かる。②対象園の相対的な位置づけが分かることをポイントとした。①では5段階評価の平均値をレーダーチャートで示し、回答の分布が確認できる積み上げ

棒グラフも表す。不満理由等の複数回答は棒グラフで回答率を示し、自由記述についてはそのまま提示をする。②では対象園が他と比べどのような位置づけとなるかを示し、本ツールで評価を行った全園の結果分布と中央値を表示する。その上で自園の位置づけを表すグラフの提示を目指す（図3）。

3. アンケート調査の実施

3.1 調査概要

以上の作業より作成されたアンケートの妥当性や改善点を検討するため、都内と横浜市にある3つ事業者の計12園で紙票のアンケート調査を実施した。対象園の概要を表4に示す。全回答者数は118名である。アンケート票の最後に自由記述欄を設け、その他にあった方がよい質問項目や回答後の感想を尋ねた。

3.2 アンケート結果

5段階評価 全園平均を算出し、全項目で「満足」～「不満」の回答が分布していることを確認した。また各園の不満率（やや不満＋不満）を求めた（表5）。園によってばらつきがあり、全園平均値では項目によって不満率の差異が表れている。

不満理由選択項目 各項目の選択肢数で除した、全園平均の指摘率を図4に示す。その他の活動中の不満は

全園を通してほぼ回答が得られなかった。さらに午睡等5つの活動にその他を含めた全6つの活動の不満理由指摘率を合計し環境要素ごとに示す（表6）。こちらを選択肢数で除している。他と比べ光環境の不満指

表2 評価項目の構成と概要

項目			5段階回答 両極	不満理由 選択肢数	備考
保育活動に 直接関わる部分	保育室 (ほふく室 ・乳児室を含む) について	午睡のしやすさ	しやすい /しにくい	-	
		食事のしやすさ			
		自由遊びのしやすさ			
		歌やお遊戯のしやすさ			
		読み聞かせのしやすさ			
		各活動のしにくさ不満理由	-	15	
	保育所の外部 空間について	家具や部屋の使い勝手	満足/不満	21	
		園庭の使い勝手	満足/不満	13	
		周辺環境の満足度	満足/不満	8	
	その他の場所 ・保育所全体 について	安全性	満足/不満	10	
		衛生性	満足/不満	6	
		保育室と園庭以外で 子どもが使用する空間の不 満場所	-	自由記述	不満場所 選択肢9
関 保 わ ら な 動 い に 部 直 分 接	総 合	総合的に子どもにとって 適切な環境満足度	満足/不満	-	
		総合的な保育者にとって 保育しやすい環境満足度	満足/不満	-	
		事務室の使い勝手	満足/不満	10	
	職 場 に 関 し て	更衣室の使い勝手	満足/不満	10	
		事務室、更衣室以外で 職員が使用する不満場所	-	自由記述	不満場所 選択肢8
関 保 わ ら な 動 い に 部 直 分 接	職 場 に 関 し て	リラックスできる ・気分転換できる ・コミュニケーションする場の それぞれの有無とその場所	-	-	有/無の 選択と 場所自由 記述
		総合的な職場環境の満足度	満足/不満	-	
	個 人 属 性	性別・年齢・担当クラス(職種) ・勤務歴・保育者歴	-	-	

表3 各活動中の不満理由選択肢

光	音	熱	空気	他
・照明が明るすぎる ・照明が暗すぎる ・窓からの光が 明るすぎる	・活動中、賑やかすぎる ・他の部屋からの 音 ・音が気になる ・屋外からの音が気になる ・冷暖房など機器からの 音が気になる	・夏に暑い ・冬に寒い ・直射日光が暑くて 困ることがある	・室内が息苦しい 感じがする ・臭いが気になる ・夏に湿度が高い ・冬に乾燥が気になる ・すきま風が気になる	(自由記述)

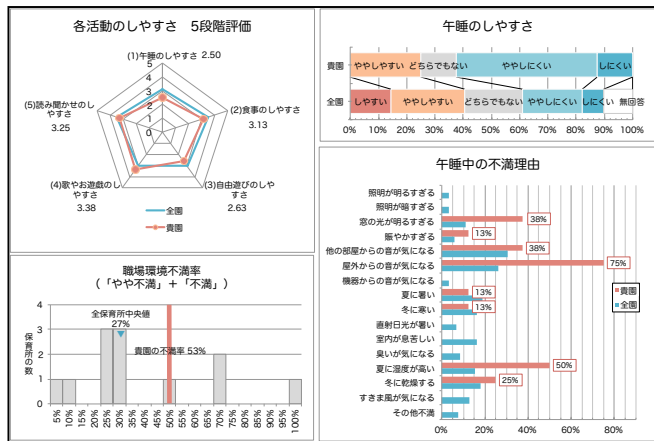


図3 分析結果表示例

摘が少なく5つの園で0%であった。

休憩場所等の有無 リラックス、気分転換、職員コミュニケーションの場所が有るの回答比率（表7）を比べると、職員コミュニケーション場がどの園も高い。打合せや会

議を行う必要があるためだと考えられる。
最後の自由記述 保育室評価ではクラスによって室の広さ、環境構成が違いため一概に判断しづらいとの指摘があった。また衛生性の不満理由選択肢に感染症対策に関する項目を加えるべきとの意見があった。

4. ツールの有効性の検討

アンケート結果をもとに4園の現地視察を行った。総合満足度が高い園でも、個々に抱えている不満箇所が指摘されているのが確認でき、園長へのヒアリングではアンケート後に家具の配置を変える取組みをした園もあった。また事業者に結果をフィードバックした上で意見や感想を聞いた際には、施設環境の視点で問題把握をするのが初めてで参考になる、次に開設する園の設計に活用したい等の意見をもらった。

5. おわりに

本研究では保育所環境評価ツールを提案し、実際の保育所で調査を行った。その結果、園ごとに不満点を指摘することができた一方で、アンケートの改善すべき点も把握できた。今後これらを反映した上で、アンケート実施媒体の検討や全園平均用のデータの収集と蓄積、把握された問題点に対する解決法の提案を行い、保育環境の向上

表4 アンケート調査対象園の概要

園	事業者	開園日	園庭有無	回答者数	建物タイプ	対象年齢
A	I	2017年4月	×	14	複合ビル1-3階	0-5
B		2017年4月	○	14	単独園舎2階建て	0-5
C	II	2017年4月	×	11	SRC造マンション1階	0,1,2
D		2017年4月	×	7	RC造マンション1階	0,1,2
E	III	2017年4月	○	8	S造マンション1階	0,1,2
F		2016年4月	×	6	RC造ビル1階部分	0,1,2
G		2016年4月	×	4	RC造マンション1階	1,2
H		2017年4月	○	13	SRC造ビル1階	0-5
I		2017年7月	○	11	RC造マンション1階	0-5
J		2017年4月	×	10	新築3階建て	0-5
K		2017年4月	×	12	RC造ビル1階	0,1,2
L		2017年4月	×		SRC造ビル1階	
		2017年4月	×	8	S造マンション1階	0,1,2

に繋げていく必要がある。

参考文献

[1]厚生労働省, 平成 29 年保育所等関連状況取りまとめ [2]藤浪他, AIJ 大会梗概 D1, 337-338, 2016 [3]川井他, AIJ 大会梗概 D1, 301-304, 2014 [4]CASBEE-健康 すまいの健康チェックリスト [5]SWO(スマートウェルネスオフィス)チェックリスト [6]宗方他, AIJ 大会梗概 D1, 125-127, 2009

表5 不満率 [%]

園	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	全園
子どもに適切な環境	0	0	18	43	25	83	75	8	82	50	75	38	41
保育しやすい環境	0	21	18	57	63	83	50	15	82	30	67	13	42
職場環境	0	21	27	29	50	67	100	23	27	10	67	25	37
午睡しやすい	14	14	36	57	63	33	0	31	45	10	17	38	30
食事しやすい	0	7	0	29	25	33	0	31	45	10	33	13	19
自由遊びしやすい	0	21	18	71	63	83	75	15	45	60	42	25	43
歌やお遊戯しやすい	0	29	0	43	13	33	50	69	45	40	17	25	30
読み聞かせしやすい	0	0	9	43	13	17	25	62	9	10	17	13	18
家具や部屋使い勝手	14	43	27	43	63	67	75	31	45	40	58	50	46
園庭使い勝手	-	50	-	-	13	-	-	15	73	-	-	-	38
施設周辺環境	0	7	9	29	0	50	25	15	9	10	42	13	17
安全性	0	0	18	71	0	67	0	15	27	20	58	38	26
衛生性	0	7	18	57	0	67	0	15	27	10	33	38	23
事務室使い勝手	0	29	0	86	63	33	25	54	36	70	33	63	41
更衣室使い勝手	7	21	45	86	100	33	25	38	64	50	50	0	43

全園平均の不満理由指摘率

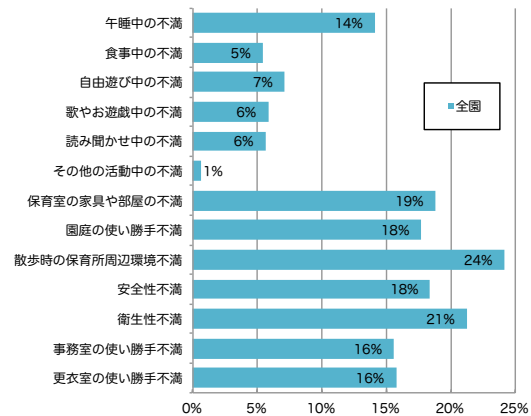


図4 不満理由指摘率 [%]

表6 保育活動中の不満理由指摘率 [%]

園	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	全園
光	5	7	3	0	13	0	0	0	18	0	14	8	6
音	2	16	45	50	78	17	106	92	23	28	46	41	45
熱	2	43	3	0	13	100	25	15	18	50	200	71	45
空気	1	23	7	57	28	100	45	42	22	16	155	75	48

表7 リラックス等できる場が有る [%]

園	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	全園
リラックス場	43	43	27	14	38	17	0	54	45	50	8	88	36
気分転換場	36	29	18	14	38	0	0	46	36	50	0	100	31
コミュニケーション場	86	93	45	57	75	67	50	46	91	80	75	100	72